

福岡

地域福祉活動職員の

まなこ

地域福祉活動推進のために

No. 79

2015年6月発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会

特集号

# 住民主体を改めて考える研修会



**私たちが行うべき支援のカタチは？**  
**真の意味での「住民主体」とは？**  
**住民主体という時の「住民」とは？**  
**本当の支え合いのあり方を探る研修会**

と き 2015年3月11日 (水) 10:00～16:30  
と ころ 福岡商工会議所

\* 研修要綱より・・・

まず次の記事をお読みいただきたいと思ひます。  
.....  
「誰かの役に立てている」と実感できる時、喜びや充実感がありませんか？  
先日、県外のある社会福祉協議会の方と情報交換をする機会がありました。  
この社協では、「きんようきっさ」という取り組みをされています。以前市内にはホームレスの方が約60名おられ、市や社協が生活保護やアパートへの入居等の支援を行ない、今では路上生活者はほとんどいなくなったそうです。  
しかし、家はあっても、地域とのつながりはなく、孤立している状況は変わりません。そこで、ボランティアグループと協働して毎週金曜日に喫茶を開き、交流や相談会をされているそうです。  
そして、最近では、元ホームレスの方が、ボランティアとして「きんようきっさ」の運営をお手伝いされているとのこと。今度は支える側になられているのです。きっと喜びや充実感を感じられているのではと思ひます。

このように、「支えられている人が、今度は支える側になるような関わり方」や、「誰かの役に立てている、と実感してもらえるような関わり方」が、「支える」ということかなとも思ひました。  
ということは、「誰かの役に立てている」と感じる時は、誰かに支えられているということかもしれませぬね。  
.....  
これは、ある市社協の広報紙に書かれていた記事の抜粋です。  
このように、「人を支える」という究極の目標は、「支援を受ける人」から、「支援を受けつつも、誰かの役に立つ」という状態をつくりだすことではないかと思ひます。  
本研修会では、こうした支援の循環や私たちが行うべき支援のカタチを考えます。そして、真の意味での「住民主体」とは何か、住民主体という時の「住民」とは誰かを問い直し、本当の支え合いのあり方を探ります。  
( \* 研修要項より )

## 基調講演

## 「エンパワメントを引き出す

## 社会福祉ワーカーの姿勢論」

●講師 中村秀一先生（九州大谷短期大学）



「こうしたら幸せになる！」

しかし、相手にとっては？

支援する側もされる側も人間です。支援者が、こうしたら幸せになると思って支援しても、相手にとっては、そうではないこともあるものです。

課題を抱える人がいたとき、その問題を軽減したり解決に導く方策を考えるのがこれまでの社会福祉です。そのことで、必ず本人も自身の状況を肯定的に捉えることができるだろう。と、

**対人支援が敬遠されている時代  
支援者自身も疲れていないか**

しかし、社会福祉の制度に順応できる人は良いのですが、そうでない人もいます。制度には限界があります。地域

包括ケアシステムが始まる今、地域の中で、住民をどう捉えていくのが、行政主体の福祉と民間の福祉のバランスが大事な時代に入っています。

今、介護福祉士の養成校に入学する学生は、大幅に減少しています。介護は3Kと言われる敬遠されます。対人支援が敬遠されている時代とも言えるかもしれません。

また、学校現場にみると、人と人の関係に疲れる学生が多くいます。この疲れを克服できないと、支援者自身も燃え尽きてしまいます。

**「与える」「与えられる」の関係×**

**「対等性」を大事にする○**

例えば、生活困窮の方がおられたら、その方を支えるために制度を紹介すると思います。それをすんなり受け入れて使ってくれる人がいたとします。この人はマズロー欲求階層説でいう「自己実現の欲求」に到達しているでしょうか。

本来、社会福祉の目的は自己実現に到達することです。

つまり、「与える」「与えられる」という関係ではいけないのです。支援の場面

で「対等性」がないといけません。また、対等だと思えるように関わらないといけません。

**「車イスの人も同じ人間だよ」**

**人は皆違う。価値観はそれぞれ。**

子どもたちへの福祉教育の場で、「車イスの人も同じ人間だよ」といったことがよく語られているようです。この言葉に何を感じますか？人は同じものというところからスタートしているように思います。

しかし、同じ人間はどこにもいません。人は皆違うんだ、というところを起点にできないでしょうか。

例えば高齢者サロン。高齢者をいかに参加させるか、ということばかりが考えられていないでしょうか。人の価値観はそれぞれです。参加しない人たっている当たり前です。参加しない人へは別の形で支援を展開していくことが大事ではないでしょうか。

**グループ内の相互作用を**

**生み出す支援**

当事者グループ支援を例に、考えてみます。こうしたグループには、入会する人もいれば、入会しない人もいますね。課題や問題等マイナスイメージを打ち出すと人は離れるものです。

逆転の発想で「楽しいこと」から始めるのも良いでしょう。具体的なメニュー

をそろえるのも良いですね。こうした中で、「与えない支援」ができないでしょうか。

つまり、グループワーカーとして、「考えてもらう」という支援「グループ内の相互作用を生み出す」支援といったものです。

**支える人を支える社協**

**住民の自己肯定感を引き出す**

支援する側の、自己肯定感も、大事にしなければなりません。「何かしてあげなきゃ」という思いが強いあまり、疲れている支援者も多くなります。社協ワーカー自身の自己肯定感も大事です。

また、社協は民生委員やボランティア等、支える人を支える役割もあります。こうした地域福祉の担い手となる住民の自己肯定感を引き出す支援も大切なことです。

相手も肯定し、自分も肯定する。そういう環境がつけられると良いですね。

**「愛され続けろ」**

**「愛する」**

最後に、「アウグスツス」という、ヘルマンヘッセ作の小説を紹介します。主人公のアウグスツスの生涯を通して、「愛され続けること」と「愛すること」のどちらが幸せか、考えさせられる内容です。皆さんは、どう考えますか？

◆報告 ト部善行/筑後市社協



# 「コミュニティソーシャルワークの視点」

## 分科会①

- 報告者 田保蔵さん (淡路市社会福祉協議会/兵庫県)
- 報告者 あそとつく氏 (わたさきり芸人/熊本県)
- 助言者 前田浩明さん (麻生医療福祉専門学校 福岡校)

### 〔報告①〕

**支援対象者が住民の一人として  
自分らしさを取り戻すまで**

● 淡路市社協 田保蔵さん

「コミュニティソーシャルワークには「個人(世帯)を支える」「自分らしく生きる」ことを実現する」「自分らしく生きようと思えるための周りの関わり」という3つの視点があると考えています。

精神障害Kさんや、身体障害Kさん(母親)と知的障害Hさん(娘)の事例



では、金銭管理、当事者本人の畑を借りた交流、母と娘が地域との関係を取り戻していく等の支援を踏まえると、個別支援と地域支援は常にバランスの取れている状態ではなく、シーソーのように揺れ動きながら課題を解決していると思えます。

社協は、当事者が地域の中で暮らし続けることが楽しいと実感できるように、個別援助や集団援助の手法を用いて社会資源の開発や整備をしていく装置のような役割ではないでしょうか。

今後は誰もが主役になれるまちづくりへの挑戦として、障害者が生活課題を抱える高齢者へ役割を提供する循環型の地域福祉を当事者、家族、地域の総意に基づき目指していきます。

### 〔報告②〕

**寝たきりのボクが**

**お笑い芸人になったその理由**

～自分を生きる術～

●寝たきり芸人 あそとつくさん  
私がお笑い芸人を目指したのは60歳を過ぎてからです。



高校生の時、クラスメイトとコンビを組んでお笑いをやっていた経験から、プロのお笑い芸人を目指したことがありましたが、挫折してしまいました。

しかし、インターネットの普及で自宅にいながら動画をアップできるようなようになったことをきっかけとして、再度夢を追いかけるようになりました。

動画をアップしていく中で、プロを目指したいという思いが芽生え、福岡のお笑いライブのステージに上がるチャンスを得ました。

スタッフの「皆さん本気で面白いライブを作っています。あなたに対するお客さんの反応はわかりませんが、笑えない人はステージにはあげません」という言葉からは、プロとして扱ってくれている嬉しさを感じました。

私は、できないと思っていることで、やりたいという本人の気持ちさえあれば、周りも変わっていくと思います。

8ヶ月経った今、ステージの上で車いすを押してくれる人や後輩もできました。また、私を見た障害児が、お笑い芸人になりたいという反応にも嬉しく思っています。

### グループワーク

**支えられる側が支える側に**

**転換していくために**

社協らしい個別支援を考えるため、私発でピンチと周りの関わり方を振り返り、実際に支援した個別事例を基にしながら、支えられる側が支える側に転換していくために必要な支援について考えました。

グループワークでは、次のような意見が出されました。

- 社協としてはなく、人として相手に向き合うこと。
- 行動を起こすことが全てではない。まずは、相手の話を聞く事が大切。
- 最後に決めるのは本人。
- 人それぞれが役割を持つ。
- 「その人らしく」をどこまで尊重できるか。
- 支援者の価値観を押し付けず、時間をかけて待つことも大事。
- 社協は個別支援だけをやる団体ではない。地域支援を視野に入れ、支え合いの仕組みを作っていく必要がある。

◆報告 建部正雄/香春町社協

松尾大輔/直方市社協



## 「グループワークの視点」

## 分科会②

- 報告者 國武竜一さん（うきは市社会福祉協議会／福岡県）  
 ○報告者 芹田洋志さん  
 ○助言者 中村秀一さん（九州大谷短期大学／福岡県）  
 （しょうがい生活支援の会すみか／佐賀県）



## 2人の実践報告

うきは市社協の國武さんから「本当の社会参加」をつくるくひきこもりの青年たちとの関わりから、しょうがい生活支援の会すみかの芹田さんからは「当事者同士の交流から生まれたもの、自信と自立と自分らしさ」というテーマで事例報告をしていただきました。

当事者同士による相互作用からエンパワメントを引き出すアプローチについて課題提起していただきました。

## 講義・事例報告を受けて

不登校や引きこもり等、グループを支援することが多い社協職員。

「うまくコーディネートしなければならぬ」という思いが強くなりすぎて、事務局主体になりがち、「カテゴリーに当てはめて物事を進めてしまう」、「成果を意識して誘導的な関わりだった」など、研修会参加者で意見を出し合い、日頃の業務手法について、振り返りました。

地域福祉の基本にある住民のエンパワメントを引き出していく方法とは……私たちが普段から当然のように行なっているグループワークの手法を改めて振り返ることで、「住民主体」の支援を行うべき社協職員に期待される役割を考えました。

## 社協ワーカーとして

## 求められるもの

グループワークの効果を共有していく

中で、次のように、いくつかの視点がみえてきました。

「誘導ではないが目的（方向性）は持つべき。ただし、主体性を重視しすぎてひっぱられてしまわないように」

「当事者とよく話をし、信頼関係を築いた上で、ワーカーの思いを伝える」など。

当事者の主体性の尊重と同時に、関係作りやグループのステップアップの際には、社協ワーカーからの側面的な支援が有効です。また、地域と相互につなげていくことができるのも社協ワーカーにこそその強みであると感じました。

そのためにもワーカー自身がいろいろなつながりを持っておくことが大切で、支援の多様性やバランス感覚など、私たちの普段の業務を振り返る必要性を感じました。

## 誰のための、何のための

## グループワークか……

ワーカーがグループワークをしていくのではなく、関係が築ければ自然とグループワークが展開されていくのではありません。そんな視点で整理すると、グループワークは、「楽しい」がキーワードになります。

- ①自分のグループと思える楽しさ
- ②お互い言い合えると楽しい
- ③仲間が増えると楽しい
- ④楽しいことが増えると楽しい
- ⑤友達同士が友達になると楽しい



「楽しい」と思えるワークから、課題の解決に結び付けていく、そんな役割が私たちに求められているのかもしれない。

## ■社協職員は真面目すぎ!?

今回の研修会では、社協以外の方々に参加、事例報告をいただき、新たな気づきが多くありました。

分科会の中で、「社協で働く皆さんは、ほんとに真面目……一生懸命、いろいろなる事を考えて大変ですね。」と驚かれる場面も。「もう少し力を抜いて、楽しく仕事してもいいんじゃないでしょうか」と社協職員を応援する、温かい言葉をいただきました。

## ◆報告

藤本直子／北九州市社協  
 中川史高／うきは市社協



分科会③

「コミュニティワークの視点」

○報告者 島海洋治さん (福山市社会福祉協議会/広島県)

○報告者 今西良一さん

(葉山ヘルスケア・省エネ共和国/福岡県)

○助言者 萩沢友一さん (西南学院大学/福岡県)



【報告①】  
ホームレス支援の現場から  
支え合いのあり方を考える

●福山市社協 島海洋治さん

福山市では、ホームレスの方が約60人おられることがわかり、社協にも様々な声が地域の方から寄せられました。排他的な意見がほとんどでした。ホームレスの方と関わる中で、「ホームレスの課題は地域の課題ではないか」と考え、カトリック教会やボランティアの方と連携して炊き出しに取り組み始めたこと。

炊き出しをきっかけに、行政とも連携し、合同で相談会を実施。これを通して、ホームレスの方々がなぜホームレス状態になっているのか、行政の理解も進み、生活保護や就労、年金などを活用しながらアパートでの生活を送ることができるようになりました。

しかし、路上生活に戻る方や、元ホームレスの方がアパートで孤独死をするといったことが3件ほど相次ぎました。これは、地域での人間関係ができていないが原因ではないか。孤立を解消し、お互いに見守りができる仕組みができないかと、ボランティアと一緒に考え、「きんようきつさ」を始められました。

「きんようきつさ」は何かをする場ではなく、毎週金曜日の10時から12時の時間帯で場所を提供し、出入り自由という気軽に立ち寄れる場所にしたことで、ホームレスの方だけでなく、地域で孤立しがちな方々でも情報交換等できる場になってきたそうです。

また、最初は食事をするだけであった方が、自然に運営側に関わるようになってきたとのこと。中には、運営の支援者になられた、ひきこもりの方もおられます。このように、「場をつくり、不完全な役割をもたせることがポイントのよう

に思う」という言葉が印象的でした。また、「きんようきつさ」は、地域へつなく場でもあります。今後は、地域へつなくいく人の育成にも力を入れていかれるとのことでした。

【報告②】  
地域ぐるみの健康づくりと  
省エネ活動

●葉山ヘルスケア・省エネ共和国

今西良一さん

葉山地区では、少子高齢化が進み、数年後にはさらに高齢化率が上昇することが懸念され、高齢者に生きがいを持った生活を送っていただき、楽しくまちづくりを行うことを目的に、「葉山ヘルスケア省エネ共和国」が誕生しました。

主な活動として、地域ぐるみでの住民一人ひとりの健康づくり、社会貢献としての省エネ活動を行なわれています。健康づくりとしては、住民の手によって、公民館で健康測定を実施。特に、一人暮らしの高齢者は、健康面に配慮されている方が多く、情報交換等の場にもなっているとのこと。また、ラジオ体操を毎朝実施することによって、ふれあいや安否確認の場になっており、誰でも気軽に参加できることから、閉じこもりの解消にもつながっているとのことでした。

省エネ活動の一つとして、各家庭の電気・ガス・水道の使用量を記録し、データを図式化したものを各家庭に渡しています。この活動は、普段の生活の延長線上にあるものを記録するだけであるため、地域の方も楽しみながら参加されているとのことでした。今後は、より多くの方の生きがいづくり、生きがいづくりからの主体的な活動へつなげていけるようにサポートしていきたいとのことでした。

「支援の対象者」に終わらせない

2つの事例報告の共通部分は、「支援の対象者に終わらせないこと」だと思っています。そのことが、生きがいづくりや、自己肯定感の向上につながるのではと思っています。

島海さんの「場をつくり、不完全な役割をもたせる」という言葉。その場での緩やかな関係の中から、「私も何かしてみよう」という気持ちを起こさせることになるのだらうと思います。

主役は「元ホームレスの方」「高齢の方」。この2つの事例に、住民主体という時の「住民」とは誰かを、気づかされたように思います。

◆報告 藤野圭亮/久山町社協  
園木崇嗣/春日市社協

## 講演

## 「支え合いとバタナリズムの間で」

●講師 高石伸人先生(ちくほう共学舎「虫の家」事務局員)



## 「良いことだから」と

## 善意を押し付けていないか

バタナリズムは父権主義などと誤されます。良いことをしているのだからと、無意識的に押し付けがましさが出てしまうことです。

この課題は、支援を行う上で必ず出てくるものです。しかしあまり語られない課題でもあります。

## 住民主体の原則によって

## 権利を侵害することもある

「住民主体の原則」の言葉は、1996年の社協基本要項で登場します。社協職員にとってはバイブルであり、社協活動の拠り所であったものです。

しかし、生活防衛のための住民主体となったとき、見落とされていくもの

もあります。

たとえば障害者施設の建設を住民主体の運動で壊されていくこともあります。つまり、テーマの質によっては、住民主体の原則によって、権利を侵害することもあるのです。

だからこそ、住民主体の原則は再定義が必要ではないでしょうか。ここでいう住民とは誰か、誰のための住民主体か、読み替えていく必要があります。

## 地域社会はどんな状況にある？

## 状況論を大切に

2月に川崎で起きた少年事件。社協ワーカーの皆さんは考え方を反転できていると思います。被害者のことはもちろんですが、18歳で殺させてしまった社会ということがあります。

この場合、地域のつながりが切れていたとされます。地域をどう再定義できるかが問われます。

また、社協職員にとって状況論は大事です。今の社会には消費者民主主義・おまかせ民主主義という状況がないでしょうか。どういった状況の中で社協活動を進めていくのかを捉えていくことは大切なことです。

## 「あなたはあなたのみで良い」

## 社協は言えますか？

今の社会は「コミュニケーション能力が重要視されすぎのようにも思います。『語れない力』をなぜ認められないか。上手に話せない人のすこさ、そういった視点でとらえられないでしょうか。

また、ひきこもりの方のこと。社会がひきこもらせていると捉えた時、ひきこもる情熱・と感じられないものでしょうか？

その人がその人のままでいい場所が必要なのだと思うのですが、今の社会ではそれはなくなり始めているように思います。社協は、「あなたはあなたのみで良いのよ」と言えるでしょうか。

## 「なぜ勝手に決めるの？」

## 「あなたの為なのよ」

障害のある女性Aさんの事例です。母と姉が「親亡き後を決めておきたい」と考え、よその県の施設に入所させようとして、Aさんは「どうして私のことを私抜きで決めるの？」と怒ります。しかし、母と姉は共通して「あなたのためなのよ」と言う。

これがバタナリズムです。母と姉は善意の行動です。しかし、彼女の人生への介入なのですが、母・姉はそうは思っていないのです。

バタナリズムは、介入する側に権力

があるものです。これは上下関係です。そして、下の方はそれを感じ、上は感じないのです。

## 本来は「問題提起当事者」

## 私たちの問題を洗い出している

よく「問題当事者」と言われます。しかし本来これは「問題提起当事者」ではないでしょうか。つまり、ひょっとしたら私たちも加害者として存在しているかもしれない。つまり、私たちの問題を洗い出しているのです。

支え合っているつもりが、実は足を引っ張っていたり、その人の尊厳を傷つけているかもしれないということを、自覚しておきたいものです。

人を人とも思わない時代、気づけばあちこちが低温やけどのような状況です。そんな中、私たちはどのような支え合いを取り戻すのでしょうか。人間をどう取り戻すのでしょうか。

## 一緒にうなずき、一緒に泣く

## 「支援する」とは言えなかった

差別はダメということも大事ですが、障害者をひっきり返すことも大切です。「障害者IIかわいそう」という感覚をひっきり返さないと、文化は変わりません。

支援する側の支援の在り方も変わらなないといけません。例えば、東日本大震災の被災地で、被災者と対峙した時、支



援などできるでしょうか。

一緒にうなずき、一緒に泣くしかありませんでした。支援などという言葉はとても使えませんでした。

### 私にできることは・・・

#### 問題提起当事者と共に歩む

最近、「寄り添う」ことの大切さがよく言われます。しかし、「あなたには寄り添われたくない」ということもあるのです。寄り添うことで相手に負担をかけてしまうこともあると自覚しておくことも大切です

### 参加者の感想・・・

#### 研修会に参加させていただいて

●安井一裕さん/雲南市社協(島根県) 毎回まなこを拝読する中で、書かれてある記事が自分の悩みと重なるところがありました。また、社協職員誰もが当たり前のように使っている「住民主体」。しかしながら自分も含め、この言葉の意味を考えたことがあるだろうか。ふと、そんな疑問が湧き、研修会に参加させていただきました。

まず、最初に驚いたのは、テーマもさることながら、志(思い)の高い社協職員が多いことでした。この人たちは熱いなあというのが第一印象でした。そして研修会は「住民主体」をテーマに、「住民主体」とは何か、社協の使命

支援というのは、こんなことが人間の

の社会として実現できたらいいね、そのために私にできることがあるかしら。というのが支援の出発点ではないかなと思います。

私たちが会おう人たちは、ひとりひとり固有の名前を持つ大切な命です。この人の尊厳をどのように実現していくのか。

問題提起当事者と共に歩み、求めていくことが大事だと思います。

◆報告 卜部善行/筑後市社協

(ミッション)とは何かについて考えさせられ、気づきと学びを得た満ち一日でした。

今回の研修は私にとって忘れることができない熱い一日となりました。福岡の皆さん、企画から当日の準備まで、ただん・です。(・だんだん・は出雲地方の方言で、ありがとう・という意味です)。

#### 上から目線の関わりに

##### ならないように

●伊藤拓也さん/筑後市社協

「支援をする側、受ける側どちらもある」と、「幸福の尺度はひとそれぞれ違う。その中で、一方的に支援を受ける、与えるという関係が幸福へ結びつくのか

を考え直す必要がある」と、冒頭の講演でのお話が、まず印象に残りました。

普段の活動で、上から目線や指導的な目線を無意識のうちにしてしまっているのでは・・・いかにさりげなく、自然体で相手との関係をつくるかが今後の課題だと感じました。

また、ワーカーは当事者の「弱み」にばかり目を向けすぎているという指摘もありました。信頼関係を築いていく中で、人となりをつかみ、本人の趣味や得意なことを見つけ、ストレッチングを伸ばしていく取り組みも大事だと気づかされました。

住民主体といったとき、私達が地域福祉の主体にしようとしているのは誰なのか。それは本当に主体者に成り得ているのか。様々な角度から考える力を持つていなければ、支援ではなく、押し付けになってしまふのだということを実感した研修会でした。

#### 研修会で仲間と語り合うことは、

##### 多くのヒントを得ること。

●小林ベティ和恵さん/桂川町社協

「住民主体」という言葉にひかれ、研修会に参加しました。心に残ったのは、中村先生の基調講演での、「人はみんな同じ」ではなく、人はみんな違う...からのスタートが大切」のフレーズ。高石先生のお話では、「立ち入らず、立ち去らず」「日本をではな

く、人間を取り戻す」が印象的でした。

時には研修会に参加して仲間と語り合い、新たな情報収集をすることは、社協職員には欠かせない貴重な時間です。日々の業務に追われ、忙しいなあ...と感じたら、外に飛び出して下さい。悩みがある時、仕事に行き詰っている時、気持ちに余裕が無いな...と思う時にこそです。講師の一言や、仲間とのたわいも無い会話に、解決の糸口を見つけられることもあります。私自身も、多くのヒントを頂くきっかけになっています。今回の3分科会は、どれも魅力的で、一つしか参加できないのが残念でした。いつも企画してくださる、福岡県地域福祉活動職員連絡会の役員の方々ご苦労様です。そして、ありがとう...ございます。



この日は3月11日、14時46分に参加者全員で黙祷しました。

連 業  
職 事  
修 研

## 新任・若手職員向け研修会

私たちの社協活動に気づくキッカケに

【ご案内】

社協の使命や役割を改めて学ぶとともに、ケースワークからグループワーク、コミュニケーションワークへ移行するまでの過程や持つべき視点等、社協活動の第一歩を歩んでいくためのキッカケを、当事者や先輩職員の話を通して探ります。

◆とき 平成27年7月31日(金)

10時30分～17時00分

◆会場 クロバープラザ501研修室

(春日市原町3-1-17)

◆対象 ①新任・若手社協職員(経験年数概ね5年未満)、②内容に関心のある方

◆内容 講義「社協の歴史的歩みと、今後社協が歩むべき道」、リレー

## 全国社協職員のごといが

福岡にやってくる!

県地職連も応援しています!

関西コミュニティワーカー協会主催の全国社協職員のごといが、初めて関西を飛び出し、福岡にやってきました。

現在、福岡県内の社協ワーカー有志が実行委員会を組織し、準備を進めています。左記の日程で開催します。多くの方にご参加いただけますよう、それぞれにスケジュールをおさえていただきますよう、お願いいたします。

◆とき 2016年2月27日(土)

28日(日)

◆会場 ①福岡市立早良市民センター

②福岡県立もち文化センター

★実行委員募集しています!

また、このごといを運営するスタッフ(実行委員)も募集しています。県内外間いません。ぜひ私たちと一緒に全国社協職員のごといを創り上げませんか?

★次回実行委員会

とき 2015年8月22日(土)

10時00分～17時00分

会場 志免町総合福祉施設シームイト(霞)

志免町大字志免451-1

問合せ うきは市社協 中川

(TEL 0942-76-3977)

トーク「私の思いを聴いて」、新任職員同士の意見交換会

◆申込・問合せ

○北九州市社協(担当 藤本)

(TEL 093-873-1296)

○うきは市社協(担当 中川)

(TEL 0943-76-3977)

◆主催 福岡県地域福祉活動職員連絡会

## 編集後記

一 編集者のつぶやき

「いないいない・ばあーああ笑った」

「住民主体を改めて考える研修会」を企画立案し、またこの研修会を特集した本号のまなこを編集しながら、私の娘と知的障害の青年の交流を思い出していました。

私も所属しているボランティアグループに娘を連れて行ったときのことです。メンバーの1人である知的障害の男性が娘をあやしてくれました。

この青年、目の前にいる1歳(当時)の子どもをあやし、その反応をみて、とても嬉しそうにしていました。

この様子を見て、「赤ちゃんボランティアだ」と思いました。

その時1歳の娘はまだ何もできません。だから、周りは自然と「この子を笑わせてあげよう」とあやしんだり、抱っこ

したりするわけですが、そのことがこの知的障害の青年にとっても「僕がこの子を笑わせるんだ」という気持ちを芽生えさせたのではないかと思うのです。

これは、支え合い活動にも共通しているような気がします。相手を「対象者」としてのみ捉えるのではなく、その人の「役割」「主体性」を大事にする関わりが大事だと思っています。

「してあげる」ばかりではなく、あえて「してもらおう」立場になってみることも、相手との関わりで大事なこともありません。そんなことを「赤ちゃんボランティア」から感じました。

誰かにとって必要とされることは、とても嬉しいこと……ですね。そう考えると、社協ワーカーって、幸せな仕事だなぁと思います。(U・Y)

★発行者

福岡県地域福祉活動職員連絡会

★事務局

〒811-2202

福岡県糟屋郡志免町大字志免451番地1

TEL 092-937-3011

FAX 092-936-9067

E-mail chiiki02@shime-shakyo.or.jp

URL http://www.geocities.jp/f\_chishokuren/